

本科講座 38

帳簿について 1

ねらい 帳簿（現金出納帳・売掛金元帳・買掛金元帳）について理解する。

簿記で使用する帳簿には様々な種類があります。試験では帳簿を元に問題が出題される時があります。ここではその帳簿について学習します。まずは、今までに学習した帳簿も含めて、どのような帳簿があるかみてみましょう。

**仕訳帳** 仕訳帳では全ての取引を日付順に記入していく帳簿です。  
仕訳帳の説明は、BREAK TIME 2で学習しましたのでここでは省略します。

**総勘定元帳** 総勘定元帳では、勘定口座ごとにまとめたものを総勘定元帳といいます。  
総勘定元帳の説明は、「本科講座 18」で学習しました。

尚、仕訳帳と総勘定元帳が簿記では記録の中心になりますので主要簿と呼ばれています。  
また、主要簿に対して補助簿と呼ばれるものがあります。補助簿とは、取引の明細を記録することをいい、現金出納帳のほかにも、当座預金出納帳、仕入帳、売上帳や、売掛金元帳など様々な補助簿があります。

**現金出納帳** 現金の動きを管理する帳簿です。（下図参照）

現金出納帳

平成 14 年	摘 要		収入	支出	残 高
4	1	前月繰越	100,000		100,000
	8	東京商店へ商品を販売	200,000		300,000
	10	商品仕入れのため		250,000	50,000
	15	掛代金支払い		30,000	20,000
	30	次月繰越		20,000	
			300,000	300,000	
5	1	前月繰越	20,000		20,000

上記を説明すると、現金出納帳は現金の動きを管理するものですので、現金の動きがあれば、ここに日付順に記入して行きます。月始めには（4月1日）前月の繰越残高を記入します。4月8日に商品を販売して現金の入金があったので収入欄に記入した後、残高を記入して行きます。難しいことではないので、図をみていただければ理解できると思います。

ここで注意しておきたい点の一つだけあります。上記の現金出納帳で4月8日の取引なら下記のように仕訳できることを理解して下さい。

例 上記4月8日の取引を仕訳すると  
（借方）現金 200,000 （貸方）売上 200,000

**売掛金元帳**（得意先元帳ともいう）特定の得意先と売掛金取引があった時に記入します。

売掛金元帳  
大阪商店

平成 14 年	摘 要		借方	貸方	借・貸	残 高
5	1	前月繰越	30,000		借	30,000
	10	掛売上	20,000		借	50,000
	12	掛代金回収（現金）		10,000	借	40,000
	31	次月繰越		40,000		
			50,000	50,000		
6	1	前月繰越	40,000		借	40,000

売掛金元帳（得意先元帳）は特定の得意先と売掛金での取引があった時に記入するものです。上記の図では、得意先大阪商店の状態が記入してあります。補助簿は取引の日付順に記入していきますので月初めは前月繰越から始まり、月末には、帳簿を集計して次月へ繰越します。売掛金元帳で注意しなければならないのは、右から2列目の借貸の欄です。ここは取引の借・貸が入るのではなく、合計の残高が借方なのか貸方なのかを記入するためにあります。

現金出納帳と同じように、この売掛金元帳からも仕訳が出来るようにして下さい。

例 上記5月10日の取引を仕訳すると  
（借方）売掛金 20,000 （貸方）売上 20,000  
上記5月12日の取引を仕訳すると  
（借方）現金 10,000 （貸方）売掛金 10,000

**買掛金元帳**（仕入先元帳ともいう）特定の得意先と買掛金での取引があった時に記入。

買掛金元帳  
難波商店

平成 14 年	摘 要		借方	貸方	借・貸	残 高
6	1	前月繰越		1,000	貸	1,000
	10	掛仕入		6,000	貸	7,000
	12	掛代金支払	3,000		貸	4,000
	31	次月繰越	4,000			
			7,000	7,000		
7	1	前月繰越		4,000		4,000

買掛金元帳（仕入先元帳）は特定の得意先と買掛金での取引があった時に記入するものです。売掛金元帳と同様に右から2列目の借貸の欄は取引の借・貸が入るのではなく、合計の残高が借方なのか貸方なのかを記入するためにあります。

また、この買掛金元帳からも、仕訳ができることを理解しておいて下さい。